



超モノづくり 部品大賞

応募
締切

2025年
(令和7年)

7月11日(金)

主催：モノづくり日本会議／日刊工業新聞社

後援：経済産業省／日本商工会議所／日本経済団体連合会

太古の時代から大地に根を張ってきた巨木。
黒風白雨、自然の猛威にさらされても
変わることなく立ち続けてきた。
大樹が豊かな自然を育み、
小さな部品が豊かな未来を築く。
自然から学ぶ不朽のモノづくりを。

MONO DZUKURI

2025年



モノづくり部品大賞

日本のモノづくり産業は少子高齢化、大都市部への集中と地域社会の疲弊、新興国の台頭による国際的な産業構造の変化の中で、モノづくり力の維持・強化、付加価値の高いモノの供給が大きな課題となっています。日本の産業界は機械や電機、自動車から生活関連に至るまで、数多くの優れた製品を生み出しています。こうした完成品を支えているのが、最終製品の機能・経済性などを実現する部品や部材です。

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下の力持ち」的存在の部品・部材を対象に「モノづくり部品大賞」を実施しています。

本賞は、03年に「モノづくり部品大賞」として創設し、08年から現名称となり、「機械・ロボット」「電気・電子」「モビリティ関連」「環境・資源・エネルギー関連」「健康福祉・バイオ・医療機器」「生活・社会課題ソリューション関連」の6分野を表彰対象としています。受賞部品は21年間で累計約780件にのびります。「企業の役割は、人の暮らしを豊かにすること」といわれる通り、重要課題への挑戦を続け、イノベーションを繰り広げています。

日本の産業界には、災害に強い国土の形成や環境・エネルギー問題の解決、さらなる顧客満足度の向上などに向けて、新しいモノづくりが求められています。技術革新や新市場創造には、優れた部品や部材が欠かせません。日本のモノづくりに寄与する卓越した部品・部材を広く募集します。

●募集期間 2025年4月1日～7月11日

●審査期間 2025年8月～10月

●発表 選定結果は2025年10月、日刊工業新聞と日刊工業新聞電子版、モノづくり部品大賞ホームページなどで発表予定

●表彰 優秀部品30件程度に「部品賞」を授与し、副賞を贈呈します

「部品賞」の中で特に優秀と認めたものには「部品大賞」を贈ります。

「部品大賞」など特に優れた部品を対象に、開発企業の想いや部品の特徴を紹介する映像を制作し、贈賞式などで上映します。

贈賞式は東京都内で開催します。

募集概要



モノづくり日本会議
モノづくりへの挑戦

対象

完成品を構成する部品・部材

- ① 機械・ロボット
- ② 電気・電子
- ③ モビリティ関連
- ④ 環境・資源・エネルギー関連
- ⑤ 健康福祉・バイオ・医療機器
- ⑥ 生活・社会課題ソリューション関連

- ※ いくつかの部品が組み込まれたモジュールやユニットあるいはモジュール・ユニットに組み込まれている部品も対象。食品や化学品などに特定の機能を付加した部材も対象。
- ※ 環境関連については、当該部品・部材を組み込むことで環境負荷軽減などが図れるもの。さらに、当該部品の開発・生産においてCO₂の削減など、優れた環境負荷低減技術を実現しているものも含まれます。
- ※ 生活関連は、衣食住に関わる製品を構成する部品・部材。社会課題ソリューション関連は、貧困や教育格差、気候変動などの社会課題の解決に貢献する製品を構成する部品・部材を対象とします。

開発時期

2024年1月以降に開発が終了し、製品化されたもの。ただし、部品の開発がそれ以前でも、その部品を組み込んだ完成品の製品化が同年同月以降であれば該当することとします。

対象となる要件

上記の条件を満たす部品で、次の項目のいずれかに該当するものを応募部品の対象とします。

- ① 独創的な発明で国内外で反響の大きかったもの
- ② 画期的な発明でなくとも、その後の研究改良により、精度や性能などが世界最高水準に達しているもの
- ③ 至難とされていた技術上の問題を解決し、わが国産業技術の向上に貢献するとみられるもの
- ④ 産業・社会の発展に役立つ先導的役割を果たしているとみられるもの

※上記、原則として販売・納入実績のあるものとします。

海外からの技術導入に基づくものは審査対象としませんが、独創的な改良が加えられている場合はその限りではありません。

日刊工業新聞社が主催、または共催している顕賞制度で受賞した部品は原則として対象外です。

推薦と評価

応募に際しては、大学や公的研究機関の研究者、あるいは取引先企業などの推薦や評価を原則添付してください。

※ご提出いただいた申請書、推薦・評価の書類は、本賞の審査においてのみ使用し、外部には一切公表しません。

審査

日刊工業新聞社とNPO法人ものづくり生命文明機構による審査委員会を複数回開催し、審査を行います。審査アドバイザー6氏には、審査にアドバイスをいただきます。

審査 アドバイザー

清水 伸二氏	(日本工業大学工業技術博物館館長、上智大学名誉教授)	〈機械・ロボット〉
益 一哉氏	(産業技術総合研究所 量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センター センター長)	〈電気・電子〉
鎌田 実氏	(日本自動車研究所代表理事・研究所長)	〈モビリティ関連〉
松八重 一代氏	(東北大学大学院教授)	〈環境・資源・エネルギー関連〉
赤池 学氏	(ユニバーサルデザイン総合研究所所長)	〈健康福祉・バイオ・医療機器〉
石田 秀輝氏	(東北大学名誉教授)	〈生活・社会課題ソリューション関連〉

応募方法

下記URLにアクセスし、応募手続きを行ってください。

<https://buhin.awardsplatform.com/>

「アワード管理ソフトウェア」により、応募に伴う申請書、各種関連資料ファイルを従来のメール添付送信(または郵送)形式から、Web上のクラウドシステムにファイルアップいただく形式に代わります。

本賞では、欧米を始め、30か国以上で利用されている「アワード管理ソフトウェア」のグローバルリーダーである「Award Force」を採用しています。

■応募手続きなどの詳細は、上記ホームページ内をご覧ください。

2025年「**超**モノづくり部品大賞」候補申請書の書き方

(申請書のフォーマットは、**超**モノづくり部品大賞ホームページ<<https://award.cho-monodzukuri.jp/>>からダウンロードできます)

超モノづくり部品大賞にご応募いただく際には、下記の要項で候補申請書を記載してください。

- 申請書はMicrosoftWordで作成してください。
- 申請書は、A4判で記述いただき、下記の記入項目の1. から4. について、5ページ程度に収めてください。
- 応募部品の写真を必ず提出してください。
- 部品内容を説明する写真や図表、カタログ、技術資料、新聞記事などがあれば、添付資料として提出してください。

【記入項目について】

1. **部品の内容および特徴** 必ず、どんな完成品のどの部分に使われ、どのような機能を発揮するかを分かりやすく記述してください。また、従来品や従来技術などと比べて優れた点や際立っている点などの特徴を具体的に記してください。広く外販するのか、自社製品への適用のみなのかなども記述してください。
2. **審査は次の5項目を中心に行います。いずれも、定量的に記述してください。自社、他社の既存・類似部品があれば、それとの比較も踏まえ記述してください。**

(1) 技術の独創性 当該部品に関する技術の画期的な点。

(2) 性能と品質 当該部品の有する機能や能力、品質。当該部品を組み込むことで、これまでにない完成品の実現や完成品の性能を飛躍的に高めた点、従来製品や他社製品との比較など。

(3) 経済性 当該部品の価格、維持管理に必要な経費など総合的かつ長期的にみた経済性。同時に当該部品を組み込むことにより、完成品の価格、維持管理に必要な経費について、総合的かつ長期的にみた経済性の改善効果など。

(4) 安全性および環境への配慮 当該部品の製造時における環境負荷低減や、組み込まれた完成品の環境負荷低減に関する当該部品の貢献など。また同様に安全面での配慮なども記述してください。

※「環境・資源・エネルギー関連」分野については、(1)、(2)を環境面に焦点を当てて審査します。従って、(4)に関しては安全性を中心とします。

(5) 実績と今後の普及見通し 受注・販売の実績、シェアなど。また海外からの技術提携の要請や輸出比率などの外国での評価もあれば記述してください。主な受注・販売先はできる限り書いてください。支障がある場合はA社、B社と記述してください。

3. **その他** 新聞記事の掲載実績や公的助成制度の採択など、特記すべき内容があれば記述してください。
4. **特許関係件数**
5. **推薦と評価** 原則添付してください(推薦や評価が無くても、応募は受け付けます)。

※申請書の書き方についてご不明な点は、FAQページをご覧ください。また上記の記入項目ではその性能など、記述しづらい場合は、下記の事務局までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号(日刊工業新聞社内)

モノづくり日本会議 **超**モノづくり部品大賞事務局

TEL: 03-5644-7608 e-mail: buhin@nikkan.tech

2025年「**超**モノづくり部品大賞」候補申請書

フリガナ（数字やアルファベットにも フリガナをふってください）	
部 品 名	
完成年月日	販売年月日
フリガナ（数字やアルファベットにも フリガナをふってください）	
製作会社名	

1. 部品の内容および特徴

2. 評価項目

（1）技術の独創性

（2）性能と品質

（3）経済性

（4）安全性および環境への配慮

（5）実績と今後の普及見通し

3. その他

4. 特許関係件数

5. 推薦と評価

2025年「**超**モノづくり部品大賞」候補申請書

サンプル

フリガナ（数字やアルファベットにもフリガナをふってください）	スマートフォンヨウデンシブヒン「エムオーエヌオー-ゼロヨン」		
部 品 名	スマートフォン用電子部品「MONO-04」		
完成年月日	2024 年 6 月	販売年月日	2024 年 10 月
フリガナ（数字やアルファベットにもフリガナをふってください）	マルバツサンカク（カブ		
製作会社名	○△× 株式会社		

1. 部品の内容および特徴

スマートフォンなどで電気制御に使われる部品。スマートフォンなどの高性能化や省エネ化に寄与する。当該部品を使用することで、従来部品の半分の大きさで3倍の高効率化を実現したほか、部品の小型・軽量化に成功。電気制御の高機能化や回路基板の省スペース化、回路の簡素化、軽量化などの改善効果がある。

当該部品は今回、スマートフォン用に開発したが、産業機械分野への応用も可能。現在、取引企業先との間で実験的に使用していただいております。今後、同分野への参入も視野に入れています。

（※必ず、どんな完成品のどの部品に使われ、どのような機能を発揮するのかをわかりやすく記述してください。）

図・表など

2. 評価項目

（1）技術の独創性

部品の材料をこれまで使用されていなかった自社開発の特殊材料を初めて採用した。特殊材料は、ナノテクノロジーを活用したことで電気抵抗を低くする機能を持たせたことにより、効率を〇〇%向上することができた。また、生産技術に当社が新開発した「**●●**技術」を採用したことで、部品構造を従来のX Y型からZ Z型に変更することが可能になり、小型・軽量化を実現した。Z Z型は部品構造を簡素化でき、部品点数を少なくすることができるため、生産効率の向上にも寄与する。

（※当該部品に関する技術の画期的な点：海外からの技術導入に基づくものは審査対象としませんが、独創的な改善が加えられている場合はその限りではありません。）

図・表など

（2）性能と品質

入力電圧〇〇～〇〇〇V、出力電圧：〇〇～〇〇〇V、出力電流：〇〇～〇〇〇A、効率〇〇%、大きさ：〇×△×□mm、重量：〇〇g。当社の従来部品に比べ、〇倍のエネルギー効率により、容積で〇〇%、重量〇〇%を削減できた。当社の調査では、同業他社の製品では、まだ当該部品と同等の小型を実現したものはないとみている。また、スマートフォンメーカーの要求基準を十分にクリアし、従来部品の〇倍の耐久変数を持つ。このため、スマートフォンの省エネ化や部品点数の削減などに寄与するほか、組み込む際の省スペース化も実現する。

（※当該部品の有する機能や能力。当該部品を組み込むことで、これまでにない完成品の実現や性能を飛躍的に高めた点、従来製品や他社製品との比較など。）

図・表など

(3) 経済性

当社が新開発した「●●技術」の導入により、従来と比べて〇〇%の製造コスト削減を達成した。特殊材料も希少性の高い材料ではなく、汎用性のある材料をナノテクノロジーによって使用できるようにしたことで、〇〇のコスト削減を図った。従来部品に比べエネルギー効率が〇〇%高いことから、スマートフォンの消費電力量の改善につながる。従来部品はスマートフォン 1 台あたり〇個必要だったが、同部品は半分以上で済み、スマートフォンの製造原価低減にも寄与できる。

(※当該部品の価格、維持管理に必要な経費などについて、総合的かつ長期的に見た経済性の改善効果など。)

図・表など

(4) 安全性および環境への配慮

部品を構成する部材などについて、有害物質の調査を行い、いずれも基準をクリアしている。また、特殊材料はリサイクル可能で、資源の有効活用にも寄与する。

(※当該部品の製造時における環境負荷低減や、組み込まれた完成品の環境負荷低減に関する当該部品の貢献など。また、同様に安全面での配慮なども記述してください。)

(※「環境・資源・エネルギー関連分野」に該当する部品は、審査項目の(1)、(2)を環境面に焦点を当てて審査します。したがって、(4)に関しては安全性を中心に審査します。)

図・表など

(5) 実績と今後の普及見通し

国内スマートフォンメーカーA社には採用が決まっており、2024年度に〇万台に搭載される計画。B社、C社には採用に向けて耐久試験を行っており、2025年度以降の搭載を見込む。また、海外メーカーからの引き合いも多くあり、サンプル出荷を行っている。同分野の製品市場は、スマートフォンの普及にともない、拡大されることが見込まれている。

(※受注・販売実績、シェアなど。また、海外からの技術提携要請や輸出比率など、海外での評価もあれば記述してください。主な受注・販売先はできる限り記載してください。支障がある場合は、A社、B社と記述してください。)

図・表など

3. その他

・ 新聞記事への掲載

2024年〇月〇日付 日刊工業新聞 「〇〇……見出しなど……〇」

2024年〇月×日付 〇〇新聞 「〇〇……見出しなど……〇」

・ 外部での受賞履歴

「〇〇賞」奨励賞を受賞

4. 特許関係件数

出願特許：〇〇件（登録済み〇件）

5. 推薦と評価

原則添付してください（推薦や評価がなくても、応募は受け付けます）

申請書は、写真や図表などを使用して、わかりやすく記述してください。
1 から 4 について、5 ページ程度に収めてください。

2024年 **超**モノづくり部品大賞 受賞部品一覧

(各賞とも応募受け付け順)

超モノづくり部品大賞

ダフニールファクールNVシリーズ

出光興産

モノづくり日本会議 共同議長賞

バリレスシリーズ

不二越

ものづくり生命文明機構 理事長賞

軟骨伝導振動子

CCHサウンド

日本力(にっぽんぶらんど)賞 (4件)

MCジョイント 日本ニューロン
3次元加飾ハードコートフィルム「ルミアート」 アイカ工業
冷間1470MPa材プレス フロントバンパーR/F 豊田鉄工
医療従事者にも患者にも嬉しい搬送アシストロボット MOOVO 日本精工

機械・ロボット部品賞 (6件)

ミーリング工具向け新PVD材料PR18シリーズ 京セラ
フレキシブルノイズレスローラ FNR 伊東電機
水圧用スプール式電磁切換弁 DSWシリーズ NACOL
超小形ローラチェーン エプシロンチェーン ステンレス仕様 椿本チエイン
ロボットバリ取り用スピンドルモーター「BRQ-EZ01」 スギノマシン
溶融せん断粘度測定装置「Nendy-E (ネンディ)」 ソディック

電気・電子部品賞 (7件)

α i-D series SERVO ACリアクトル ファナック
AZシリーズ直交軸FCギヤードタイプ取付角寸法35mm オリエンタルモーター
スイッチング電源装置「TEPS/TECS」 コーセル
半導体ガス濃度計 フジキン
小型真空プラズマ装置用交流高圧電源「PKM-VP20」 魁半導体
高強度・高耐摩耗トロリ線「SNH合金トロリ線」 プロテリアル
ユニット型パワコン ダイヘン

モビリティ関連部品賞 (3件)

薄肉切削加工技術を用いたふっ素樹脂 (PTFE) 製ダイヤフラム 中興化成工業
高硬度鋼加工用高送り小径複合ラジアスエンドミルEHHRE-TH3 mini MOLDINO
高耐熱リチウムイオンキャパシタ「Libuddy」 ジェイテクト

環境・資源・ エネルギー関連部品賞(3件)

エコdeヒートEX ファインマシーンカタオカ
ディグリー
中部電力
中部電力ミライズ
「TungFeedBlade」内部給油機能付き突切り工具 タンガロイ
レンズ形切れ刃を有する高送り高精度5軸MC向け3枚刃エンドミル MLFH330 日進工具

健康福祉・バイオ・ 医療機器部品賞(2件)

防災マット「MATOMAT」 太平洋工業
複合材製大腿骨骨折治療用髓内釘 ビー・アイ・テック

生活・社会課題ソリューション 関連部品賞 (2件)

Re-carboシリーズ「断熱クイックセーバーTR」 三和シャッター工業
墨出しロボット「SUMIDAS」 竹中工務店
レンタルのニッケン
未来機械

奨励賞 (7件)

圧造完結品 昭和金属工業
YRMコントローラ YRM1010 安川電機
マニホールドコントローラおよび対応電動アクチュエータ SMC
楕円振動型直進フィード「クロスドライブリアフィード」 NTN
金型磨きレス加工用工具 日産自動車
ディスクカッタ PFDC オーエスジー
BX止水板 ラクセット ハイタイプ 文化シャッター

2023年 **超**モノづくり部品大賞 受賞部品一覧

(各賞とも応募受け付け順)

超モノづくり部品大賞

一体造形誘導加熱コイル (AMコイル)

ティーケーエンジニアリング

モノづくり日本会議 共同議長賞

緩み防止ねじPLB v2

ニッセー

ものづくり生命文明機構 理事長賞

CAPSULE SENSE

太平洋工業

日本力(にっぽんぶらんど)賞 (3件)

自転車ホイール用超低トルク玉軸受「ONI BEARING」…………… ジェイテクト
革新的な液切れ向上技術…………… 魁半導体
金属3Dプリンタ用 試験造形対応ユニット「Material Trial Unit」…………… ソディック

20周年記念賞 (1件)

キャビテーション無軸連続混合器「DEM」…………… 土壌環境プロセス研究所

機械・ロボット部品賞 (6件)

大径ワークに適応したダウンサイジング高速傾斜円テーブル…………… 北川鉄工所
NSKリニアガイド 長寿命シリーズDH型／DS型…………… 日本精工
高能率側面切削用エンドミルER5HS-PN…………… MOLDINO
スリムシートクリーナ…………… TRINC
センサ内蔵転がり軸受「しゃべる軸受」…………… NTN
水圧モータ [NWM-012]…………… 日本アキュムレータ

電気・電子部品賞 (4件)

バッテリーセンシングIC LC709204/9…………… オン・セミコンダクター
カラーセンサ 形B5WC…………… オムロン
超短パルスファイバレーザ「iQoM」…………… セブンシックス
機器の省エネ、小型化に大きく貢献するGaNデバイス「EcoGaN」…………… ローム

モビリティ関連部品賞 (3件)

大流量水素ステーション向け超高压バルブ機器…………… フジキン
ゴムリサイクル技術を用いたオープニングトリムWS…………… 豊田合成
自動車用インストルメントパネル (低収縮&高触感PVC表皮)…………… ダイキョーニシカワ、龍田化学

環境・資源・ エネルギー関連部品賞(2件)

エジェクタシステム一体型バルブマニホールド…………… SMC
真空乾燥機 EVADRY…………… スギノマシン

健康福祉・バイオ・ 医療機器部品賞(2件)

電動グリップ EHシリーズ 3つ爪タイプ…………… オリエンタルモーター
一般医療機器 手術用ドリルビット Ecuma-Stab…………… オー・ケー・シー

生活・社会課題ソリューション 関連部品賞 (1件)

編成樹脂網状構造体 座面クッション材 (E-LOOPシリーズ)…………… オカムラ、帝人フロンティア、
テクセツ、エコ・ワールド

奨励賞 (9件)

鋳鉄旋削加工用インサート材種MC5100シリーズ (MC5105・MC5115・MC5125) …… 三菱マテリアル
新高性能ダイカスト金型用鋼 DAC-X…………… プロテリアル
400nA 超低消費 昇圧DC/DCコンバータ XC9145シリーズ…………… トレックス・セミコンダクター
cBNマイクロ2枚刃ボールエンドミル SMB200…………… 日進工具
耐風形軽量シャッター「耐風ガードLS」…………… 三和シャッター工業
アクアREVOミル ステンレス用…………… 不二越
高剛性アルミ鋳造合金 ATHIUM／ALSTIF…………… ヒノデホールディングス
新硬質材料 サステロIST60…………… 富士ダイス
高能率・多機能転造タップ『A-XPF』…………… オーエスジー

2024年 超モノづくり部品大賞

受賞部品の紹介

① 日刊工業新聞 第2部

受賞部品や受賞企業の喜びの声などを紹介する日刊工業新聞の第2部を2024年12月11日の贈賞式に合わせて発行しました。



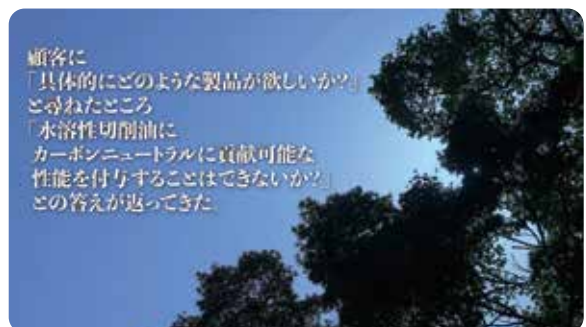
② 受賞部品の紹介映像の製作

第21回／2024年 超モノづくり部品大賞の「大賞」を受賞した部品を取材し、部品・部材の開発秘話や苦労話、技術のブレークスルーなどに焦点を当てた映像を制作しました。最終製品に組み込まれると一般にはなじみが薄い部品・部材を分かりやすく紹介するため、開発にまつわる物語を「見える化」しています。

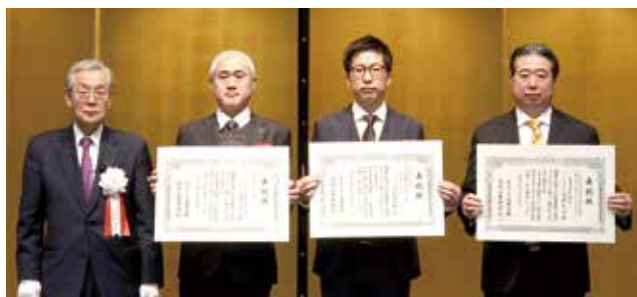
映像は、2024年12月11日に開催した贈賞式で上映したほか、超モノづくり部品大賞ホームページ (<https://award.cho-monodzukuri.jp/>) 内でご覧いただけます。



ダフニールファクール NVシリーズ 出光興産



贈賞式の様子



超 モノづくり部品大賞

<https://award.cho-monodzukuri.jp>

お問い合わせ

モノづくり日本会議 超モノづくり部品大賞 事務局

TEL:03-5644-7608 FAX:03-5644-7209 e-mail:buhin@nikkan.tech
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1（日刊工業新聞社内）



モノづくり日本会議

超モノづくりへの挑戦

モノづくり日本会議とは企業の規模、業界の垣根を越えた約2000社が集結した組織です。わが国モノづくりの可能性を再確認すると同時に、日本がモノづくり立国であることを国民の共通認識とし、人口、環境、資源などの厳しい制約に対応できるモノづくりのパラダイムシフトを促進、新しい価値創造に基づく「MONODZUKURI」文化の醸成を図ることを目的とします。



GREEN PRINTING & JPPF
P-2010001
この印刷製品は、環境に配慮した
原料と工場で製造されています。



HOKUETSU
GROUP



CO2ゼロに挑戦する
北越グループの取組を応援しています。

